

令和3年度 学校推薦型選抜 小論文(文学科 英語英文学専攻) 解答例

問1 (30点)

【採点のポイント】

- ・ 本文に挙げられているカルチャー・ショックの対処方法を具体的に説明しているか。
- ・ 高校で習得する程度の語彙力、および日本語表現能力があるか。
- ・ 200～240字で書いているか。

【解答例】

事情は自国にいるときと同様ではないと考えるようにする。なぜなら仕事のやり方やコミュニケーションの取り方、そして何時と何時に食事をするのかなどは、しばしば相違があるからだ。人と話をする。その人やその人の文化について知りたいという姿勢を示す。一人の行いが社会全体を映し出す行いであると考えないようにする。どのくらい距離をあけて人々は立っているのか、どのように人々は列に並んで待つのか、会話をするとき、人々はどれくらい間を取るのかなど、日常の細々した相違を理解する。(230字)

問2 (70点)

【採点のポイント】

- ・ カルチャー・ショックと考えられる経験を挙げているか。
- ・ 自分の考えを具体的に述べているか。
- ・ 文章を論理的に構成しているか。
- ・ 高校で習得する程度の語彙力、および日本語表現能力があるか。
- ・ 520～570字で書いているか。

【解答例】

小学校から中学校へ進学したとき、最初の数か月は、中学校のすべてが嫌になり、自分はこの学校に溶け込んでいないし、溶け込みたくもないと思っていた。仲のよい友達や相談に乗ってくれた先生と離れ、寂しい思いを抱えた。そこへ日常の細々した相違が一举に押し寄せた。登下校の時間や通学方法が変わり、学習内容も急に難しくなったように感じた。給食から弁当になり、私服から制服を着ることになった。生活が一変し、私は衝撃を受け、孤独を抱えて友達をつくることもできずにいた。今思うとそれはカルチャー・ショックの状態であったと思う。人間は、新しい場所を元いた場所

(home)と比較しがちであり、元いた場所の方が良いものだと考える傾向があると筆者は述べている。おそらく私は小学校を自分の「home」と考えるようになっていたのではなかろうか。カルチャー・ショックの対処方法の一つとして、本文には、事情は自国にいる時と同様ではないと考えるようにしなさいと助言されていた。私は中学校での生活が、小学校と違うことに混乱し、腹を立てていた。中学校での新しい「文化」においても、周りの人と共有できることを見つけながら、自分らしさを失わずに新生活に臨んでいけば、もっと早い時期にその生活を楽しんでいたのかもしれない。(536字)